

放送セミナー「新たなラジオスタイル～ラジオの聴き方・接し方～」を開催

総務省東海総合通信局(局長 吉武 久)は、令和元年8月23日(金)、名古屋ガーデンパレスにおいて、東海情報通信懇談会(会長 稲垣 康善 名古屋大学名誉教授)との共催により、放送セミナー「新たなラジオスタイル～ラジオの聴き方・接し方～」を開催、放送事業者を中心に73名が参加しました。

はじめに、株式会社TBSラジオ経営企画局技術部長の塩山雅昭氏が「ラジスマ(ハイブリッドラジオ)～その可能性と有用性～」と題して、インターネットとFM放送を切り替えてラジオを聴取できるスマートフォン(ラジスマ)の仕組みや、常に持ち歩いているスマートフォンをFMラジオとして使用できるため災害時にも安心といったメリットについてご講演されました。

次に、日本放送協会ラジオセンターチーフ・プロデューサーの石井直人氏が「スマートスピーカー ～海外のラジオ事情～」と題して、スマートスピーカーの登場以降、これを使って音声コンテンツ聴取する方が海外で増加し、音声コンテンツ分野が急成長している背景を紹介するとともに、日本でもバラエティに富んだ音声コンテンツが求められると予見し、良い音声コンテンツを作り出していく者が新しい時代を創るとご講演されました。

続いて、立命館大学産業社会学部現代社会学科教授の坂田謙司氏が「ツールをどう使うか ～様々なシーンでラジオができること～」と題して、radikoやスマートスピーカーの登場で以前と比較してラジオを聴ける環境が格段に広がった状況の中、今までのラジオ業界が持っている様々な呪縛から離れて、音と声を伝えるツールと言う視点から、リスナーが自身の生活のなかで自由に楽しめるようなラジオのあり方についてご講演されました。

最後に、情報科学芸術大学院大学(IAMAS)教授の金山智子氏をファシリテーターに招き、講演者3名と『「リスナー本位」のラジオのすすめ』をテーマに「①送り手側はどのくらいリスナーのことを知っているのか。②リスナー本位の環境整備をどのように進めたら良いのか。③リスナー本位のコンテンツをどのように制作していくのか」の3つの切り口から意見交換を行いました。

参加者からは、予定時刻を過ぎるまで質問が出されるなど、本セミナーテーマへの関心の高さがうかがえました。



TBSラジオ 塩山氏



NHK 石井氏



立命館大学 坂田教授



ファシリテーター:
IAMAS 金山教授



セミナーの様子

お問い合わせ先: 放送部放送課

052-971-9198